愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	東邦プロジェクトＡ		
担当者(Instructors)	中野 匡隆	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

自主的に学ぶ中で「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）を身に付けることを目的とし、「まちを元気に！」をテーマに「まちの活性化プロジェクト案」を作成する。授業の前半では、必要なスキルを学び（座学）、学んだスキルを活かしながら、フィールドワーク等のアクティブラーニング・論理的思考力・コミュニケーション力・課題解決力等を養う。授業の後半ではPBL（課題解決型学習）手法を用いる。地域連携を前提として自ら想像し、創造する「答えのない」学びのプロジェクトを展開する。【地域・産学連携センター科目】

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	地域・産学連携センター科目として、座学、ワークショップ、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークなどを活用して学びます。フィールドワークは、授業外の時間で「地域・産学連携センター」の各種地域連携、産学連携事業などに参加して活動します。また、これらの記録をポートフォリオを活用して、より計画的、能率的、効果的に学修を進めていきます。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	イントロダクション	目的、概要、日程などの確認。	□
第2回	「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）	「個々が目指す社会人」に必要な力を確認し、自分の現状を把握する。	□
第3回	ポートフォリオの使い方	ポートフォリオとは、授業の課題や実践だけでなく、授業外の活動実績などの学びのアウトプットを包括的に記録・蓄積・保管することで、学修をより計画的、能率的、効果的に進めるためのツールです。	□
第4回	コミュニケーションとマナー・立ち振る舞い①	適切なマナー・立ち振る舞い（挨拶・身だしなみなど）の効用を知り、コミュニケーション力を養う。	□
第5回	コミュニケーションとマナー・立ち振る舞い②	適切なマナー・立ち振る舞い（挨拶・身だしなみなど）の効用を知り、コミュニケーション力を養う。	□
第6回	チームビルディング	チームビルディングに必要なファシリテーションを学び、コミュニケーション力を養う。	□
第7回	課題発見と課題解決	「まちを元気に！」をテーマに、与えられた条件のもと、解決すべき課題を考え、「まちの活性化プロジェクト案」を作成する。	□
第8回	プレゼンテーション	「まちの活性化プロジェクト案」を聴衆に対して分かりやすく説明し、理解や納得を得ることができるようなる。	□
第9回	ディスカッション	各「まちの活性化プロジェクト案」をディスカッションする。	□
第10回	地域・産学連携活動（フィールドワーク）①	「地域・産学連携センター」の各種地域連携、産学連携事業に参加する。	□
第11回	地域・産学連携活動（フィールドワーク）②	「地域・産学連携センター」の各種地域連携、産学連携事業に参加する。	□
第12回	地域・産学連携活動（フィールドワーク）③	「地域・産学連携センター」の各種地域連携、産学連携事業に参加する。	□
第13回	地域・産学連携活動（フィールドワーク）④	「地域・産学連携センター」の各種地域連携、産学連携事業に参加する。	□
第14回	実践報告と振り返り	「地域・産学連携センター」の各種地域連携、産学連携事業の成果報告をし、振り返る。	□
第15回	総括	プロジェクトおよび授業全体を振り返り、総括し、自己評価と他者評価を実施する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

ワークショップ、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークの準備や振り返り、ポートフォリオの入力（４時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

ワークショップ、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークについて、ポートフォリオを活用して、授業内で全体で共有しながらフィードバックする。必要に応じて、地域・産学連携センターの担当者が１on１ミーティングを実施します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2019全学共通DP3	プロジェクトを通じて、主体的に様々な他者と協働して、課題を分析し、解決策を考え、実行することができるようになる。また、ポートフォリオを活用し、自らプロジェクトに必要なスキルの習得の状況や、プロジェクトのプロセス評価できるようになることで自己を理解することができるようになる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

ワークショップ、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、ポートフォリオの成果を包括的に評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし（必要に応じて、資料等を配付、提示します）	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし（必要に応じて、資料等を配付、提示します）	
2		
3		
4		
5		